

# 白石の農×育てる人

～農家の輝く姿を情報発信！～

2カ月に1回、白石のすてきな農家さんを紹介していきます！ 私たちの身近にある「農業」の情報を楽しくお届けします。今回は、「酪農」について紹介します。



☎農林課 ☎22-1253

## 誇れる地元の「酪農」

酪農は、私たちの食を支える大切な産業です。本市の酪農は、戦後、蔵王山麓に入植し開墾に取り組みましたが、たび重なる天災などによる凶作が続いたため、当時の農林省の指導を受け、牧草のみで家畜を飼育する酪農経営が始まりました。現在、本市には23戸の酪農家があり、合わせて1,000頭を超える乳牛を飼養しています。

## 酪農家の生活

皆さんが想像する酪農家の生活は、毎日未明から日が沈むまで乳牛の世話をしている姿でしょうか。最近では、デジタルを活用することにより作業負担を軽減し、働きやすい環境を整えています。例えば、分娩では、いつ子牛が生まれるか分からないため、昼夜問わず観察していました。しかし、現在は携帯電話と連動した温度センサーシステムを活用することで、分娩日を予測することができるようになり、観察回数が減りました。このように新しい技術を導入し、作業改善に取り組む酪農家も増えています。

## 酪農家のこだわり

品質の高い生乳を生産するには、乳牛の過ごしやすい環境づくりが大切です。牛舎の丁寧な清掃や栄養バランスの良い給餌など、毎日の小さな努力を積み重ねることで、長生きする元気で丈夫な乳牛を育て、「質」の高い生乳を生産します。

現在、飼料高騰など酪農家にとって厳しい状況が続いています。しかし、本市では、これまで家族が築いた酪農を受け継ぐ20代の若手酪農家や、親元就農を目指し勉学に励んでいる後継者もいます。酪農家支援のために、私たち消費者ができることは限られていますが、国産の牛乳・乳製品を少しでも多く消費していきましょう！



▲乳牛のストレス軽減のため、牛舎を常に清潔に保っています



▲小さな変化も見落とさないように観察しています



▲牧草や配合飼料などを混合し、栄養バランスの良い餌を作っています

# 避難行動要支援者名簿への登録申請はお済みですか？

～逃げ遅れゼロ いざというとき、お互いを助け合うことのできる地域へ～

☎福祉課 ☎22-1400

令和5年3月31日現在、避難行動要支援者名簿への登録者数は1,149人となっています。災害はいつ起こるかわかりません。地震などの大きな災害では、消防や警察などの救助がすぐに来るとは限りません。そのようなときに備え、日頃から「災害時は自らの身を守り、お互いを助け合う」自助・共助の心構えを持つことが大切です。

名簿は、日頃の見守り・声掛け活動や防災訓練などに役立てていただくとともに、災害時には安否確認などの支援に活用します。誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりに協力をお願いします。

### 名簿へ登録できる方

- ・65歳以上で独り暮らしの方（自力避難が困難な方）
- ・高齢世帯のみの方 ・要介護3以上の方
- ・身体障害者1・2級の方 ・療育手帳A判定の方
- ・精神保健福祉手帳1級の方 ・指定難病患者の方
- ・上記のほか災害時に支援を必要とする方



## 避難支援体制（イメージ図）

### 避難行動要支援者

自ら避難することが困難な方  
支援を必要とする方

申請

自治会長  
民生委員・児童委員

提出

市役所  
名簿の作成・更新

見守り・安否確認・避難支援

### 避難支援等関係者

- ・自主防災組織（自治会）
- ・民生委員・児童委員
- ・白石市社会福祉協議会
- ・白石警察署
- ・白石消防署
- ・白石市消防団
- ・白石市医師会



平常時見守り、避難訓練の実施など  
災害時の避難支援

同意した方の情報提供

### 登録（申請）の方法

- ・申請は各地区の自治会長や民生委員・児童委員の方へお願いします。
- ・自治会長や民生委員・児童委員がわからない方は、福祉課（総合福祉センター内）でも受付し、市より自治会長や民生委員・児童委員へ連絡します。
- ・申請書兼同意書には「氏名」「生年月日」「電話番号」「支援を必要とする理由」などを記入していただくようになります。本人が記入できない場合には、家族の方などの代筆も可能です。

### 名簿の管理について

名簿に記載されている情報は、災害対策基本法により守秘義務が課され、目的以外で他者へ情報を漏らすことは禁じられています。

### 災害に対する備え

名簿に登録をすることで、災害時に必ず助けがくるということをお約束や保証するものではありません。支援者自身も被害に遭う可能性があり、十分に活動できない場合もあります。各家庭で災害に対して備えておくこととともに、日頃から地域の方々との交流をはかり、必要な支援について理解してもらっておくことが重要です。